

雑誌形態としての予稿集がなくなります

学術総会に於ける各演題の発表内容は2009年の第44回学術総会までは抄録として抄録集に、2010年の第45回から2013年の第48回学術総会までは予稿として予稿集にそれぞれ掲載され、印刷媒体として学術総会前に学会員全員に配布されていました。また、第45回学術総会からは、発表内容を本誌半ページ分の予稿原稿だけでなく、倍のスペースを使った本誌1ページ分のプロシーディング原稿として各演者に執筆して頂き、学術総会后に刊行される第4号をプロシーディング特集号としてそこに掲載してきました。幸いに、大多数の演者の方から原稿を提出していただき、学術総会の情報を格段に充実した形で提示できるようになり、好評を博しております。

しかしながら、昨年11月に開催されました理事会及び社員総会(評議員会)でお示しして了承をいただいたように、当学会の財政状況が厳しく毎年赤字を出しており、このまま漫然と学会運営を続けていけば学会の存立に関わるようになることから、支出を出来るだけ抑制することとされ、その一環として雑誌形態としての予稿集を廃止し、そのかわりに、学術総会のプログラム及び演題発表内容は学会ホームページ上に示すこととされました。したがって、学術総会の概要を知るためには、会員諸兄がそれぞれ個別にホームページにアクセスし内容をダウンロードして頂くこととなります。お手数をおかけしますが、諸般の状況にかんがみ、ご協力の程お願い致します。

なお、以上示しましたように、雑誌形態あるいは紙媒体としての予稿集は無くなることから、プロシーディング原稿を提出して頂かないと、学術総会で演題を発表した証拠ないし痕跡は残らないこととなりますので、ご注意下さい。プロシーディングでは、参考文献の記載及び図表を使用することが許されており、また発表の成果反響を踏まえて発表後の加筆修正も可能ですから、従来の抄録あるいは予稿に比較して格段に充実した内容にすることができます。さらにそのスペースをプロシーディング特集号の中の1ページに限定しておりますので、後日本格的な論文を執筆する際に妨げとなる二重投稿と見なされることもありません。

予稿集を廃止するに至る経緯及び廃止に伴う変化は上に述べたとおりですが、いずれにせよ、廃止は本学会をより発展させるために熟慮を経た上での決断であります。会員の皆様におかれましては、事情をご賢察の上、奮って演題を応募して頂き、また発表後はプロシーディング原稿を提出して下さい。よろしくお願いいたします。